



## 50年の節目迎え 屋号を原点回帰

うおしん

結婚式場などの多目的ホールを運営する小名浜住吉飯塚、うおしん（齊藤正行社長）は四月一日、屋号を「カルテドシヤン・ブリアン（仏語で『風薫る街』の意）」から「おもてなしうおしん」に改め、新たなスタートを切った。

同社は昭和三十二（一九五七）年に鮮魚店として創業し、同四十七年に会社組織化。これまで約八千組の婚礼をはじめ、数多くの市民らの縁を結び、一昨年から八幡台やまたやグループの一員となっている。会社組織化から五十年の節目を迎え、「原点に立ち返ってよ



この春から屋号を改称した、うおしん

近辺の牧草地の一部、約四千平方メートルを手入れしていたところ、翌年には春の訪れとともに、一面にワラビが群生していることがわかった。県当局に放射能検査を依頼した結果、「安全」とされたため、昨年からは一般への開放に踏み切った。期間中は市内外から多くの市民が訪れ、袋などを片手に熱心に摘み取っていた。今年も当局の検査後、四月末から無料入園を始めた。今年にはワラビのほか、タラボも芽を出しており、『ダブルの幸』に市民も大喜びだ。

希望者は、同牧場（電話六二一四〇八四）の上遠野さんまで連絡すること。



ワラビ取りを楽しむ多くの市民  
=昨年

【訂正】本誌五月号「まちなユース」の記事中、オリジナルの完熟たい肥を作っている、三戸（べ）畜産の電話番号（携帯）が間違っていました。正式には、「〇九〇一六二五一―一八四六」です。

## いわき市長選

### 9月5日投開票 現新4人が表明

今秋九月二十七日の任期満了に伴ういわき市長選について、市選挙管理委員会は、八月二十九日に告示、九月五日に投票すると発表した。

市長選を巡っては、元文部科学省教育改革推進室長の内田広之氏（四九）、元常磐共同ガス社長の猪狩謙二氏（五八）、現職二期目の清水敏男氏（五七）、飲食店を営む渡部（わたの）

## 渡部氏が立候補決意

### 「食を通じ皆さんに笑顔を」

今秋九月に実施されるいわき市長選に伴い、市内などで飲食



店を営む渡部（わたのべ）安彦氏（三四）がこのほど、出馬を明らかにした。

渡部氏は今回の立候補に関し、「二十四歳の時、東日本大震災に遭い、何もできない自分の力量を痛感した。これを機に、食を通じて多くの市民の皆さん

市長選への立候補を明らかにした渡部氏

に笑顔を与えたいと考え、決意しました」と、語った。

市内の平、植田、郡山などで計六店舗の飲食店を営む渡部さんは、南相馬市出身。東日本国際大学卒業後は、ココスなどの勤務経験を持つ。

渡部氏は、コロナ対策、災害、医療、福祉・介護などについての政策も提案し、「みんなで作るいわきのために頑張りたい」と、語っている。

市長選については、五月中旬現在、現職、新人合わせて四人が立候補を表明している。

## 高倉の「ワラビ園」 今年も無料開放中

酪農後継者牧場

齊藤社長は、「コロナ禍で厳しい状況だが、地域の方々に一層喜んでいただくため、原点である『おもてなし』に励んでいきたい」と話している。

問い合わせは、同社（電話五八―四二二二、ファクス五八―四二二四）まで。

春の訪れとともに、山の幸の収穫を楽しむ人が増えている。高倉町磐下地内、高倉酪農後継者会牧場を営む、上遠野豊さんは、今年も一帯の牧草地に育つ「ワラビ」の摘み取りを市民に無料開放中だ。上遠野さんは三年前、同牧場